

## 健康や命の大切さを主体的に考える生徒の育成

～「がん教育」を取り入れた「いのちを考える週間」の取組を通して～

伊仙町立犬田布中学校  
養護教諭 末原 有希

### 1 はじめに

本校は、生徒数 58 人、特別支援学級 1 学級を含む 4 学級の小規模校である。世界自然遺産に登録された自然豊かな徳之島にあり、学校教育目標に「学び高め合う心豊かな生徒の育成」を掲げ、自立した生徒の育成を目指し、日々教育活動に取り組んでいる。

### 2 主題設定の理由

本校の生徒の実態として、誰とでも仲良くでき、素直で明るく元気に過ごす姿がみられる。一方で「言葉遣いが荒く、友達を傷つけてしまう」「自己肯定感が低い」「自主的な行動ができない」ことなどが課題である。そこで「いのちを考える週間」として、がん教育を中心に様々な視点から学ぶことで、自他の大切さに改めて気づき、これからの生き方について主体的に考えることができるようになれば、言動が変化するのではないかと考え、本主題を設定した。

### 3 取組の実際

#### (1) がん教育

##### ア 全教職員・保護者との共通理解

職員会議において、がん教育を中心とした「いのちを考える週間」の取組内容を全教職員で共通理解した。

また、保護者へは授業前に配慮事項の確認と授業参観の案内を文書で行った。

##### イ ワークシートの作成

がんについて学んだことをまとめ、いのちを大切に生きていくための行動目標を記入できるワークシートを作成することで、生徒が学習内容を振り返るとともに、担任が生徒の理解の深まりを確認できるようにした。

#### ウ 事前授業

学級担任が「がんサポートかごしま」作成のパワーポイントや文部科学省のがん教育推進のための教材を活用し、生徒一人一人の背景に配慮しながら事前授業を行った。

##### <事前授業の内容>

- ・ がんの現状について
- ・ がんの予防について
- ・ がんの早期発見と治療について

#### エ がん教育授業研修会

##### (ア) 外部講師を活用した授業

学級担任と外部講師のチームティーチングで授業を行った。導入で事前学習を振り返りがんについての正しい知識の確認を行った。展開では生徒の質問を踏まえて、がん患者さんの体験談を聞いた。

生徒の感想から、講師の言葉を一人一人がしっかりと受け止め、がんについて理解し、自他のいのちについて深く考えた様子が見えてきた。

##### <生徒の感想>

「いのちが大切なもの、がんはとても怖くて苦しいこともあるけれど、一生懸命生きている人がいることを知りました。」



【外部講師を活用した授業の様子】

##### (イ) 全体会

授業後は、参観された多くの先生方が学校の現状と課題を話し合い、がん教育の在り方について熱心な意見交換が行われた。離島では外部講師の人材不足や予算の確保が難しいこと、がん教育の教育課程への位置付け、授業時数の確保などが課題としてあがった。



【全体会の様子】

#### オ 事前・事後アンケートの結果分析

事前・事後アンケートの結果から、生徒の意識変化が見られた項目が多々あった。

- |   |
|---|
| ○ 早期発見すれば、がんは治りやすい<br>事前：正しいと思う 87.8%<br>事後：正しいと思う 100% ↑         |
| ○ がん検診を受けられる年齢になったら検診を受けようと思う<br>事前：そう思う 58.5%<br>事後：そう思う 82.9% ↑ |

このような結果から、がんについて正しい知識を学ぶことの大切さと、外部講師を活用した授業を行うことにより、がんに対する意識の変容がみられることがわかった。

#### カ 事後指導

学級担任がアンケート結果を基に生徒の理解がさらに深まるよう事後指導を行った。

教材は、鹿児島県保健福祉部健康増進課の「調べてみよう！がんのこと」を活用し、外部講師の授業等を通して生まれた疑問や学んだ知識の再確認を行った。

また、保健だよりに授業の様子や内容を掲載し、保護者へも「がん」や「いのち」について家族で話題にする機会を多くつくれるように啓発した。

#### (2) 「いのちを考える週間」の取組内容

##### ア 性に関する指導

対象者：全学年（各学年で実施） 指導者：外部講師（助産師）
1年生：二次性徴と思春期の悩み 2年生：生命誕生 3年生：いのちの出前授業


##### イ 自殺予防教育(SOSの出し方に関する学習)

対象者：全学年 指導者：外部講師（高橋聡美研究室代表）
○ SOSを出すことの大切さについて ○ 自尊感情を高めるスキルについて

#### ウ 全校朝会

対象者：全学年 指導者：校長・養護教諭
○ いのちの大切さや一人一人が大切に育てられたことに関する話 ○ いのちに関する絵本の読み聞かせ

#### エ 学校保健委員会

対象者：保護者 指導者：外部講師（通所支援事業所職員）
○ エゴグラム分析を通しての自己理解 ○ 家族の特性理解と上手な付き合い方 ○ いのちを考える週間の取組内容紹介

#### オ 「いのち」に関する展示・掲示など

- |   |
|---|
| ○ 「いのち」に関する書籍の展示<br>○ 生徒会保健部による自殺・LGBTQ・デートDVに関する掲示物の展示<br>○ 赤ちゃん人形の展示<br>○ 全校生徒による掲示物の作成<br>○ 「いのち」に関する音楽の視聴 |
|---|

## 4 成果と課題

### (1) 成果

ア これまでもいのちを大切にするための教育に取り組んできたが、がん教育を中心に様々な視点から学ぶことで、「いのちの大切さ」に対する生徒の意識がより高まり、言動に変化がうかがえた。

イ 外部講師の活用により、がんについて正しく理解することで、偏見をもつことなく、共生社会に向けたこれからの生き方についても考えることができた。

### (2) 課題

ア 外部講師を活用したがん教育の推進のために、島内での人材確保や島外からの講師派遣のための予算確保が必要である。

イ がん教育を継続していくための時数の確保と学校全体で取り組むための共通理解や関係機関との連携が必要である。

## 5 おわりに

今後も全職員で、がん教育を継続・発展させていくことで、健康的な生活を自ら考え・実践し、自他のいのちを大切に生きていけるような生徒を育成していきたい。